



# Flash News

フラッシュニュース

三重大学

第14号

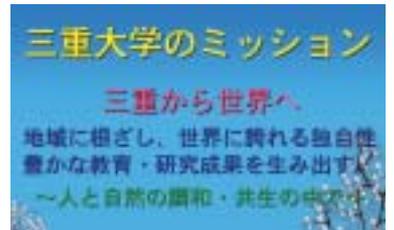
## 目次

「国立大学法人三重大学」発足  
第4回三重大学運営諮問会議が開催される  
相互友好協力協定が「鳥羽市」「海の博物館」との間で締結される  
学生交換留学に関する覚書が調印される  
21世紀COE プログラム

附属病院で内科・外科中心の診療科を臓器別に再編  
学校心理学シンポジウム  
第1回天津師範大学短期語学研修  
附属病院で「医療の質向上に向けての講演会」が開催される

## 「国立大学法人三重大学」発足

豊田学長より「国立大学法人三重大学」発足に当り抱負のお言葉を頂きました。『法人化に伴い、運営費交付金の減額、教育・研究活動評価、中期目標・計画の達成度評価など、大学は厳しい競争的環境にさらされます。しかし、これをネガティブに捉えると、ますます評価が下がり交付金が減額され、デフレスパイラルとなり、大学は保ちません。皆で力を合わせて、攻めの姿勢に転じましょう。たとえば、経費節減のような一見おもしろくなさそうな活動にも、各部署やチーム・個人で目標を明確に設定し、皆で挑戦・評価・改善（Plan-Do-Check-Act）する「目標チャレンジ活動」として取組みたいと思います。私は大学運営のキーワードとして、3つのCを提案します。最初のCはCient-centered（顧客第一主義）のCです。大学にとって第一の顧客は、学生とそれを受け入れる社会です。学生の方々が満足できる教育・環境を提供することは当然ですが、一方で学生の方々には社会が求める付加価値を身につけていただくかねばなりません。2つめはCommunicative（良好なコミュニケーション）のCです。良好な人間関係や相互理解のある大学実現のために、教職員間、学生・教職員間のコミュニケーションの促進に努めます。3つめはChallenging（挑戦意欲）のCです。一人一人が目標や夢を実現する「チャレンジ精神」が大切です。3つのCをキーワードに、大学のミッションである、「地域に根ざし、世界に誇れる、独自性豊かな大学を、人と自然の調和・共生の中で」実現しましょう。』



豊田長康学長



前号に引き続き、新組織の経営部門の方々にご挨拶を頂きました。



福島健郎理事

財務・経営機構は、三重大学のミッションを実現するために、国民との公約とも言える中期目標・中期計画を真に実効の拳がる形で達成していけるよう財務面で支えていくことが大きな使命であると考えています。恒常的な運営費交付金は毎年減額されていきますが、評価や客観公正な審査に基づき配分される競争的な資金に係る予算額は年々増額されていくことが予想され、それをどれだけ獲得できるかが、発展する大学と衰退する大学との別れ道となります。このため、本学が全国にアピールできる実績をつくっていくことが是非とも必要であり、全学のご協力をいただきながら、そのための財務・経営面での戦略を考えていきたいと思ひます。

私は、3月まで民間企業に籍をおいていました。昨今、民間企業では不祥事が相次ぎ、そのダメージの大きさに震撼しています。監査の重要性が改めて認識され、監査機能が強化されています。これからは三重大学も法人化され競争にさらされます。社会から信頼され尊敬される大学でなければなりません。クリーンで透明な大学を目指してお役に立ちたいと思ひています。



知切四書監事



伊藤哲監事

具体的にどんな貢献ができるかわかりませんが、監事というのは昼行灯のような存在がいいのかなと考えております。私としては、長年の監査法人での業務の経験を踏まえて、外部者の目で見た建設的意見を申し上げる事が出来ればと考えております。各部署におかれましても忌憚のないご意見をお聞かせいただく等御協力賜ようお願い申し上げます。

## 第4回三重大学運営諮問会議が開催される

3月18日に、標記の運営諮問会議（議長：武村泰男・前学長）が開催されました。今回の会議では、国立大学法人化への取り組み状況、本学の近況が報告され、ついで、訪問者のとりまとめが行われました。提出された答申は本学ホームページ（<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/simon/tosin.pdf>）に掲載しております。

## 相互友好協力協定が「鳥羽市」、「海の博物館」との間で締結される



矢谷隆一前学長

井村均鳥羽市長

本学の地域連携戦略で重要な位置を占める市町村との相互友好協力協定が、3月22日、新たに6番目の市町村として鳥羽市との間で締結され、文化・教育・学術などの分野で相互に協力していくことになりました。調印式は、矢谷隆一・本学前学長、井村均鳥羽市長及び関係者が出席のもと、三翠会館で行われました。同市とは、市内診療所への医師の派遣や観光資源開発に対するアドバイス等、個々のレベルではつながりがありましたが、離島振興・産業振興・福祉、健康、医療、自然・生活環境

など総合的な見地での更なる地域連携の強化と地域の活性化に対する期待が高まっています。また、文化施設としては初めて、漁撈用具等の収集・展示で特色のある海の博物館（財団法人東海水産科学協会・鳥羽市）と3月18日に相互友好協定を締結しました。調印式は矢谷隆一・本学前学長、水谷皓一・同財団理事長、石原義剛・同館長および関係者の出席のもと、行われ、同館保有の全施設と資料の積極的活用により研究・調査面で協力し合うとともに、学芸員養成などの教育面や地域貢献において連携・協力することが確認されました。なお、今後三重大学関係者の同館利用は無料になります。

左：(財)東海水産科学協会・水谷皓一  
右：矢谷隆一前学長

## 学生交換留学に関する覚書が調印される

3月23日に韓国梨花女子大学校と3月24日に東国大学校との学生交換留学に関する覚書が調印されました。この覚書により、双方の大学からそれぞれ5人以内の留学生交換と、留学先大学の単位取得も可能となります。今後隣国としてのより活発な国際交流が大いに期待できます。（写真右：韓国梨花女子大学校・辛仁鈴総長 左：上野達彦前副学長）



## 21世紀COEプログラム

文部科学省による平成16年度「21世紀COEプログラム」は、「革新的な学術分野の開拓を目指す研究教育拠点に限定して」1月中旬に公募されました。本学では医学部、工学部（生物資源学部と合同）で可能性のあるテーマの検討会を開き、理系3学部長、新旧研究担当副学長、現学長が検討を重ね、3月3日に以下の3プログラム、「神経難病患者の心的平安創出を目指す脳医学（拠点リーダー：溝口明・医学部教授）」、「自然・地域と協奏する分子プロセッシング（同：武田保雄・工学部教授）」、「次世代社会に資する創成型診断システム科学（同：陳山鵬・生物資源学部教授）」を提出しました。プログラム案は「革新的な学術分野の開拓」に特に重点を置いて作成していただきましたが、公募分野が一つだったため応募数も多く、十数倍の難関となっています。

## 附属病院で内科・外科中心の診療科を臓器別に再編

附属病院では、平成16年2月から内科系と外科系を中心に、臓器別診療科がスタートしました。この目的は、従来の第一内科、第二内科のような名称を患者様や紹介医に分かりやすい診療科名に変えること、および高度先進医療機関にふさわしい必要診療科を臓器ごとに整備することです。内科系には「総合内科」「循環器内科」「消化器・肝臓内科」「呼吸器内科」「腎臓内科」「血液内科」「腫瘍・免疫内科」「糖尿病内分泌内科」「神経内科」、外科系には「一般外科」「消化器外科」「肝胆膵外科」「心臓血管外科」「呼吸器外科」「乳腺内分泌外科」「小児外科」が置かれます。各診療科に科長が、内科系と外科系に主任診療科長が置かれ、全体の調整と統合をはかることで、患者様が一層利用しやすい病院を目指します。

## 学校心理学シンポジウム

2月21日、三重大学教育学部主催（事務局：廣田秀一助教授）「第1回学校心理学シンポジウム」が、医学部臨床講義棟で開催されました。県内の教員の方々を中心に、学校教育での心理学の活用に関心を持つ100名余りの方が参加し、「教育の場面で働く心理過程への理解を深め、心の法則に沿った効果的教育実現へのヒントを探る」ことを目的とした活発な情報交換が展開されました。また、このシンポジウムをきっかけとして「学校心理学フォーラム三重（仮称）」を設立し、日常的に三重県内の教育関係者が実りある情報交換を進めるシステム作りが企画されました。今後の展開が期待されます。



## 第1回天津師範大学短期語学研修



3月7日から21日にかけて第1回天津師範大学短期語学研修（団長：宮地信弘・教育学部助教授、参加者：教育学部生8名）が実施されました。15日間の日程の中には万里の長城や故宮博物院への小旅行も含まれ、中国語や太極拳などを学んだだけでなく、中国の古い歴史と新しい文化も実感できた参加学生には好評でした。また引率教官は日本語学科の中国人学生に日本語の授業を行ない、大変感謝されました。2004年度からは全学の学生が募集対象になる予定です。

## 附属病院で「医療の質向上に向けての講演会」が開催される

3月22日、医学部附属病院で第2回目の「医療の質向上に向けての講演会」が開催されました。滋賀医科大学医学部附属病院の高橋雅士氏を講師に招き、講演をいただきました。同大学では、昨年11月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審され、認定証を取得されました。このご経験を基にわかりやすく説明をいただき、病院機能評価の受審が医療の質向上のきっかけとなることが理解できるものとなりました。



## 投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。亀岡孝治（vp@mie-u.ac.jp）または井上真理子（mariko-i@ab.mie-u.ac.jp）まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで（<http://www.mie-u.ac.jp>）ご覧いただけます。》編集責任者 / 理事・副学長 渡邊逸郎